

特定非営利活動法人宮崎文化本舗

2020年度

通常枠

草の根

社会的孤立解消のための事業

申請事業概要	<p>子ども、高齢者、障害者などの生活困窮世帯が直面する社会的な「孤立化」を宮崎県内地域共通の課題として捉え、解消するための事業を行う実行団体を募集し、課題解決に向けたモデル事業を創出していく。事業実施に際して、実行団体に対して本助成を活用した資金的支援と、組織基盤強化等を行う非資金的支援を行う。資金的支援では人材の確保や拠点等の場の整備を視野に入れた事業への支援及び継続的な事業化を進めていく。非資金的支援では、当法人のネットワークを活用して、専門的な知見を有するアドバイザーが伴走支援を行うことで組織自体の運営体制強化や人材育成、他セクターとのネットワーク構築など自立し、継続的に事業を行っていく体制づくりに努める。資金分配団体、プログラムオフィサーだけでなく外部アドバイザーや先駆的事例を行う団体とも協力し、地域内で多層的かつオルタナティブな活動を実践していく。本事業での取り組みをモデル事業として確立させ、他地域にもノウハウ移転の形で広げていくことで、宮崎県内だけでなく中長期的に県外への波及効果も見込んでいく。</p>
領域分野	<p>1) 子ども及び若者の支援に係る活動 ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援</p> <p>2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動 ④働くことが困難な人への支援 ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援</p> <p>3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 ⑥地域の働く場づくりの支援 ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援</p>
助成金額	88,702千円
HP	http://www.bunkahonpo.or.jp/

実行

団体

認定特定非営利活動法人 ホームホスピス宮崎

社会的孤立解消のための事業(重症児、医ケア児の家族及び本人の社会的孤立解消のために)

申請事業概要	<p>当法人は、重症心身障がい児及び医療的ケア児(以下、重症児という。)のためのショートステイ施設「たちばな在宅総合支援ハウス」を2021年10月に開設予定で建設を進めているが、ここは、24時間気を抜くことができない子供のケアで心身ともに疲弊し、なおかつ社会的に孤立しがちな家族(以下、当事者という。)のレスパイト施設としての役割が大きい。本事業は、主にその当事者(特に母親)達の救済とケア及び孤立解消のための社会活動をサポートする取り組みとして、①コミュニティカフェを活用した様々な専門家による相談カフェの実施、②研修ルームを活用したクラフト教室やヨガ教室などの定期開催、③製作されたクラフト作品などの販売サポート、④全国の先進的な取り組みとの連携、⑤SNSやリモートミーティングシステムを利用した交流やSOSネットワークの構築、⑥福祉避難所としての設備の整備、⑦これらの取り組みを実施、運営するための事務局体制の整備を3年間の計画で実施する。1年目は、担当者の雇用など体制の整備及び設備の整備、また実施計画の策定と事業運用の開始。2年目は、事業の安定した実施及び成果の評価、またそれに基づく是正の計画策定。3年目は、取り組みのは是正及び継続した実施のための計画策定とその実際の運用。このような事業計画に基づいて、持続的な仕組みを構築する。</p>
助成金額	14,890,500円
HP	https://www.npo-hhm.jp/

実行

団体

特定非営利活動法人 みやざき子ども文化センター

子育てワンストップセンター及びネットワークの構築

申請事業概要	<p>子育て等におけるさまざまな相談を受け付ける窓口が定着し、孤立者が自分の力で解決に向けて進むことができるプロセスを構築することでエンパワメント(及び自己決定)を強化し、これからの中多様な課題に対し、自己解決・自己決定(上手なSOSの発信を含む)できるように支援する。</p> <p>多様なニーズに適切な支援を結び付けるために県内各所に点在する社会資源(潜在する支援サービス及びサポート機関、ノウハウを持つ団体)と連携するネットワークを構築するとともに、さまざまな機関・団体における取組み、支援者の資質向上等の機能強化に努め、安定した質の高い支援ができるよう各機関・団体のエンパワメントの強化に繋げる。</p> <p>孤立者を発見し、課題を解決する宮崎モデルを構築し、他県に発信できるモデル事業となることを目指す。</p>
助成金額	17,682,040円
HP	https://www.kodomo-bunka.org/

実行

団体

特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校

人口減少化により孤立した集落の関係人口による課題解決プロジェクト

申請事業概要	<p>・世界農業遺産に認定されている高千穂郷・椎葉山地域には、昔ながらの山側の農村文化が色濃く残っている。人情味あふれる人々とふれあい、心に残る深い体験をしたいと願う外国人、または都市部に暮らす日本人は多いだろう。孤立した不便な集落に住み、急激に人口が減って行く中でも、農林業や観光業など、複合的に仕事を作り出しながら力強く生きている。その暮らしこそが魅力であり、この地域の価値である。ありのままの暮らしを体験する生活・文化・農業体験や、農村の暮らしの中を歩いて巡るフットパス(イギリス発祥の歩くプログラム)など、その集落にあったプランを住民と共に作り上げ、先ずは定期的にイベントを開催する。動画や、ホームページ(英語版も含む)、SNSなどのメディアツールを駆使し情報発信を行う。</p> <p>・このエリアは大学が近くにないが高校は五ヶ瀬中等と高千穂高校の2校ある。両校とも総合学習の時間などで地域課題探求学習を行っている。1人~3人程度のグループを形成し、自分たちでテーマを探り、地域住民に話を聞いたり、協力を仰ぎながら研究を進めている。そこで、「孤立した集落の課題解決」をテーマに、両校の在校生や卒業生、地方創生系学部の大学生などをターゲットに、政策提案コンテストを開催し、優秀提案については予算を付けて実践活動を行う。</p>
助成金額	20,000,000円
HP	https://www.gokase.org/